

アスチルベ

Perennial spiraea



学名：Astilbe (アスティルベ)
科名：Saxifragaceae (ユキノシタ科チダケサシ属)
原産地：東アジア、北アメリカ

東アジアや北アメリカに約25種が分布する多年草のアスチルベは、日本にもアカショウマ (アスチルベ・ツンベルギー) やアワモリショウマ (アスチルベ・ヤボニカ)、ヒトツバショウマ (アスチルベ・シンプリキフォリア) など十数種が自生します。現在、一般に栽培されている種のほとんどは、東アジア産の原種がヨーロッパにもち込まれて改良されたもので、なかでもアスチルベ・アレンジーとアスチルベ・ロセアがもっともポピュラーです。

白・ピンク・赤・藤紫色など花色が豊富なアスチルベ・アレンジーは、中国原産のオオチダケサシ (アスチルベ・ダビディー) と、日本原産のアワモリショウマ、アカショウマ、チダケサシ (アスチルベ・マイクロフィラ) が交雑されてできた種で、主な品種として、高性 (草丈約70~80cm) の‘クイーン・アレクサンドラ’ ‘ホワイト・グロリア’ ‘アメシスト・カトレヤ’ ‘グロリア・プルプレア’ ‘ダイヤモンド’ ‘ダイヤモンド’、矮性 (草丈約30~50cm) の‘ファイア’ ‘ドワーフ・ホワイト’ ‘コブレンツ’ ‘ヴェスベアナ’ などがあげられます。

いっぽう、白やピンクの花色をもつアスチルベ・ロセアは、中国原産のアスチルベ・キネンシスと、日本原産のアワモリショウマとの交雑種で、主な品種には、高性の‘ピーチ・ブロッサム’ ‘ドイッチュラント’ ‘グロリア’、矮性の‘ボン’ ‘ファナル’ ‘ケルン’ などがあります。

栽培ポイント

栽培

極端な乾燥を除けば、どんな環境にも適応し、地植え・鉢植えとも、簡単に栽培できます。植えつけの適期は3月もしくは10月で、地植えの場合、堆肥などをすき込んだ場所に、約30×30cmの間隔をとり、5cm程度の深さで定植。鉢植えの場合は、6~7号鉢を使用し、同じく5cmほど覆土します。



アスチルベ・アレンジーの矮性品種‘イリリヒト’。草丈40cmほどで白い花を咲かせます。

MEMO	栽培：難易度 ★☆☆☆☆	開花時期：5~9月
	生育温度：15~25℃	収穫時期：-
	手入れ：冬期には枯れた枝を切り取る	高さ：30~80cm
	土：6：4 (赤玉土：腐葉土)	病気・害虫：黒斑病、白絹病・アブラムシ、ハダニ

花

ア
ス
チ
ル
ベ

生育温度

生育適温は15～25℃。冬期もとくに防寒する必要はなく、むしろ、寒気に十分当たらないと、開花しないこともあるので、鉢植えの場合も、戸外で冬越しさせましょう。

手入れ

乾燥を好まないため、夏期は株元にわらや落ち葉などを敷いて、湿度を保ちます。また、冬期には、地上部が枯れるので、枝や葉を切り取っておきましょう。

日照

日向、半日陰のどちらでもよく育ちます。

水やり

年間を通して、土の表面が乾いたら、たっぷり水を与えます。

土

用土はとくに選びませんが、腐植質に富んだ、やや湿り気のあるものがベスト。赤玉土6、腐葉土4の割合で混合したものがよいでしょう。

肥料

地植えの場合、植えつけ前に、1㎡当たり約2kgの乾燥牛ふんと約200gの有機配合肥料を混ぜておきます。さらに毎年、芽が出始める時期と花後に、緩効性化成肥料を1㎡当たり約100g施しましょう。鉢植えの場合は、元肥は必要なく、追肥として生長期の3～5月に、月1～2回の頻度で1000倍の液体肥料を与えます。

アスチルベの名前は、ギリシャ語の「ア（ない）」と「スティルベ（輝くような美しさ）」にちなみます。



アスチルベ・アレンジーは、20世紀初頭、ドイツ人のゲオルク・アレンズによって作出されました。

植えかえ

地植えの場合、数年間植えっぱなしでも問題はありますが、株が密生しすぎて花つきが悪くなるので、3～4年ごとに株分けを兼ねて植えかえるとよいでしょう。鉢植えの場合は、毎年3月か10月ごろに、新しい用土で、ひとまわり大きな鉢に植えかえます。

殖やし方

株分けで殖やします。3～4年に1回、3月もしくは10月ごろに掘りあげ、1株に3～5芽がつくように切り離します。このとき、あまり細かく分けてしまうと、花つきが悪くなるので注意しましょう。

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日照		日向・半日陰											
水やり		ふつう											
肥料													
植えかえ													

購入アドバイス

苗は3月あるいは10月ごろに出まわります。芽が太く、株元がしっかりしたものを選びましょう。また、5～6月ごろに出まわる鉢植えを購入する場合は、葉や花つきのよいものがおすすめです。



草丈60cmほどの品種、アワモリショウマ（アスチルベ・ヤゴニカ）‘マリンス’

病気対策と害虫防止

- 葉に黒褐色の斑点が生じる黒斑病は、降雨後や多湿時に起こりやすい伝染性の病気です。症状が出た葉はすぐに処分し、ベンレートやダイセンなどをまいて再発を防止しましょう。
- 夏期に発病しやすいのが、株元や地表面に白い菌糸があらわれ、枝葉が枯れてしまう白絹病。他株に蔓延するのを防ぐために、被害を受けた株はただちに抜き取り、ベンレートやタチガレンなどを散布します。
- 新芽や葉茎につき、生長を妨げるアブラムシには、オルトランやスミチオンなどの薬剤が効果的です。
- ハダニが葉や茎に寄生して、株を衰弱させることがあります。こまめにチェックし、発見したらケルセンやマラソン、サンマイルなどで駆除しましょう。